

競技上の注意

平成25年度全日本卓球選手権大会 審判長 長谷川 敦司

平成25年4月1日一部改定の日本卓球ルールを適用して実施する。

平成25年4月1日改定ルールのポイント

- ラケットコントロール検査は、通常マッチ前に行われる。
- マッチ前検査にラケットを提出しなかった場合にはマッチ終了後に行われる。
- マッチ前のラケットコントロール検査に合格しなかったラケットは、そのマッチでは使用できないので、別のラケットを使用しなければならない。その使用したラケットはマッチ終了後に検査されることになる。もしマッチ後の検査に合格しなかった場合、そのラケットを使用した競技者にペナルティーが科せられる。

- 一般男子・女子シングルの1～3回戦までは5ゲームズマッチ。4回戦から決勝までは7ゲームズマッチにて行う。他種目は全て5ゲームズマッチにて行う。

1. ボール、卓球台、ラバー、ラケット、試合方法について

- 使用球は日本卓球協会公認の「白色スリースター」40mmボールを使用する。
- 各選手(組)は、「ボール選択所」で1球選んで主審に渡して下さい。
- 希望するボールメーカーが違う場合、試合開始時にジャンケンで決定する。
- 選択したボールが破損等でなくなった場合、又は双方の選手(組)があらかじめ選んで来なかった場合、主審の所持球の中から無作為に1個選択し使用する。
- 卓球台はブルー台を使用する。床にカラーマットを使用する場合もある。
- 外国製ラケットでJTTAが公認していないものを使用する場合には、あらかじめ試合開始1時間前までに「ラケット使用許可願い」を提出し、審判長の確認・許可を受けて下さい。
- ラバーは、JTTAまたはITTFが公認したもので、公認ロゴがなければ使用できない。
- ゲーム中にラケットを破損した場合は、スペアラケットかプレー領域内で手渡されたものと交換し、すぐプレーをすること。

《ラケット検査に関する注意点》

- 選手集合場(コールエリア)でITTF・JTTA公認のラケット検査器による検査を行う。選手は試合開始予定時刻の20分前までに試合で使用するラケットを持って集合すること。
- コントロールセンターでは、VOC、接着剤を含むラバーの厚さ(ソフトラバーは4.0mmを超えないこと)、表面の平坦性等の全ての検査が行われる。
- 試合前検査で違反と判定された場合、別のラケットに交換して試合を行うこと。
- 交換した別のラケット、試合前検査に間に合わなかったラケット、試合中に破損して取り替えたラケット等は試合後検査となる。試合後の検査で違反と判定された場合、その選手は負けとなり相手選手が勝ちとなる。
- 大会期間中、試合前、試合後を問わず、同一競技者がラケット検査で3回の違反があった場合大会は失格となる。
- 選手が希望すれば、試合開始前までにラケットの自主検査を受けることができる。

2. サービスについて

- サービス開始時にフリーハンドの手のひらを開き平らにし、ボールをのせて静止させる。
- ボールに回転を与えることなく、手のひらから離れた後16cm以上、ほぼ垂直に投げ上げ、落下する途中を打たなければならない。
- サービスを開始してから打球されるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置で、エンドラインの後方になければならない。またその間、サーバーまたはダブルスのパートナーの体の一部、または着用している物でボールをレシーバーから隠してはならない。
- ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアームとフリーハンドをボールとネットとの間の空間の外に出さなければならない。

3. 競技服装について

- 競技用服装(シャツ、ショーツ、スカート)は、JTTAの公認マークの付いているものを着用すること。
- 同じ服装による対戦を避けるため、色・柄の異なった2種類以上の服装を用意すること。
- ダブルスを組む競技者は、互いに所属が異なる場合でも、広告を除いて同一の服装でなければならない。但し、ショーツ、スカートについては、同系色であれば着用できる。
- 競技用服装以外に、サポーター、リストバンド、ヘアバンド、スパッツを着用できる。その場合のメーカーの商標・ロゴは、日卓協公認用具指定業者のものであれば1箇所認められる。
- アンダーシャツは競技用服装から大きくはみ出さないようにすることで着用が許可される。若干のはみ出しの際、メー

カーの商標・ロゴが付いている場合は外部から見えないようにすること。

- 「ゼッケン」は主催者が用意したものを着用すること。
- 公認用具一覧表は、以下のURLで確認してください。

<http://www.jtta.or.jp/handbook/gyosha/13koninyogushiteigyosha0910.pdf>

4. タイムアウトについて

- 競技者(組)または指名されたアドバイザーは、1マッチを通じて1分以内の「タイムアウト」を1回要求することができる。
- タイムアウトの要求は、ゲーム中のラリーとラリーの間のみできる。その際、手で「T」の字を作り、主審にその意思を明確に示し伝えてください。
- 競技者(組)とアドバイザーの意思が異なった時は、競技者(組)の要求が優先される。

5. バッドマナーについて

- 競技者またはアドバイザーは、相手競技者に対し不当な影響を与えたり、観客に不快感を与えたり、ゲームの評判を落とすようなクセや態度(大声で叫び汚い言葉を使う、相手選手を威嚇する、故意にボールを潰したり競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う等)、そして無断でのラケット交換、競技役員の指示を無視するなどを行った場合、バッドマナーとして判断され、相手へのポイント、退場、失格等のペナルティーが科せられる。
- ポイントが決定した後は、速やかに次のサービス体勢、あるいはレシーブ体勢をとり、みだりに時間を取るようなことなく、競技のスピードアップをはかること。「スロープレー」もバッドマナーの対象となる。
- 試合開始時刻に遅れたり、事情もなく相手を待たせたりすることもバッドマナーと判断されることがあります。プログラムを確認し、競技開始に影響させないよう準備をしてください。

6. アドバイス・抗議について

- ベンチには、試合開始前に届け出たアドバイザー1名のみが入ることができる。
- アドバイザーは原則として競技者と一緒にベンチに入ることが望ましい。
- 試合中のアドバイスは、ゲームとゲームの間の休憩時間、又はその他の規定で認められた競技中断時のみに認められる。
- ゲーム中のアドバイスは、認められた時間以外、ジェスチャーを含め一切禁止されている。違反した者にはバッドマナーとして退場を含めた罰則が科せられる。最初はイエローカードで警告、2回目はレッドカードで競技領域外に退場となる。
- 抗議は、競技者のみ(個人戦のため)が行うことができる。
- 主審または副審による事実の判定に対しては抗議出来ない。

※同時に2台のアドバイザーを希望する方は、各試合前に主審に届け出た場合に許可されます。

7. 幕・旗の掲示について

- 横幕の表示は、競技会のスポンサーとして協賛するところ以外は、卓球部名以上に企業名を大きくしたものは、宣伝を目的としたものとして認めない。
- 横幕は、タテ1m、ヨコ4mを最大寸法とし、卓球部名が入っているもの。
- 校旗、部旗はタテ1.5m×ヨコ2m以内とし、校章、社章またはシンボルマークは中央に入れ、タテかヨコ表示の卓球部名が入っているもの。
- 縦幕は原則として許可しない。

※応援のための横幕は、自チームの全選手の試合が終了した後、速やかに撤去してください。

8. 一般的注意事項

- プログラムおよび会場内掲示板により、競技日程・組み合わせ・試合予定時間・試合コート等を確認しコートへの出場を遅らせないこと。(試合予定時刻より早い場合は15分前より試合を行う。)
- 進行の都合で、予定コートあるいは開始時刻を変更する場合があります。放送・掲示等に注意して行動して下さい。
- カメラ、ビデオ撮影は、「報道」と許可された場合と、選手が自己のプレーを撮影するために持ち込む1台のみが認められる。
- 競技場内での携帯電話は、使用禁止です。
- 自分自身の状況にあったウォームアップをして試合に臨むようにすること。特に、関節、アキレス腱などに対する準備運動は必ず行うこと。
- 競技中に起こったケガ・事故につきましては応急処置を致しますが、一切の責任は負いません。
- 盗難防止のために、試合中は持ち物を知人に預けるなどして絶対に放置しないこと。